

これまでの経緯

- 2012年6月 「高次脳機能障害のある本人・家族が住み慣れた地域で孤立することなく安心して暮らせるための支援ネットワーク」をつくることを目的に、元東北厚生年金病院で、国のモデル事業を担当していた遠藤実先生を代表に、NPO法人ほっぶの森を事務局として設立。
- 7月 朝日新聞社厚生文化事業団主催
「高次脳機能障害講演会」を実施。
- 9～12月 ピアサポーター養成講座を
仙台において開催（全5回）。
- 7～12月 家族交流会を石巻、気仙沼、栗原、塩釜、大河原の
各圏域保健福祉事務所、他において開催。
- 9～12月 ネットワーク会議を気仙沼、登米、白石、大崎、石巻、
栗原の各市において開催。
- 2013年1月 一般社団法人日本損害保険協会助成
「宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会」
を石巻市において実施。
- 1～12月 家族交流会を石巻、登米、気仙沼、栗原、塩釜、大河原
の宮城県保健福祉事務所、他において開催。
- 3月 「立神粧子、小澤富士夫講演会」および
仙台圏ネットワーク会議を仙台市において開催。
- 3～5月 ピアサポーター実践講座を
仙台市において開催（全3回）。
- 5～7月 ピアサポーター養成講座in石巻を医療法人社団
仁明会斎藤病院において開催（全5回）。
- 9月 栗原、登米、大崎各圏域合同ネットワーク会議
および一般社団法人日本損害保険協会助成
「宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会」
を古川市において開催。
- 11月 石巻圏域ネットワーク会議開催。

この事業は2009年～2011年の宮城県助成「夢ファンド」から継続して、2012年～2014年ファイザー株式会社の助成「心とからだのヘルスケアに関する市民活動」事業によって実施されています。

まずはご相談ください。



高次脳機能障害支援拠点機関

● 宮城県リハビリテーション支援センター (まなウェルみやぎ)

〒981-1217 名取市美田園2-1-4 TEL.022-784-3592
✉ rehabicl@pref.miyagi.jp
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/rehabili/>

高次脳機能障害支援機関

● 仙台市障害者総合支援センター (ウェルポートせんだい)

〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-24-1 TEL.022-771-6511
✉ kos005380@city.sendai.jp
<http://www.city.sendai.jp/d01/wellport.html>
(仙台市にお住まいの方)



宮城高次脳機能障害連絡協議会

どんまいネットみやぎ 事務局

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階 ほっぶの森内
☎080-2836-3580
✉ info@donmainet.com
ホームページ <http://donmainet.com/>

※このパンフレットは、ファイザー株式会社の「心とからだのヘルスケアに関する市民活動」の助成によって制作されました。

ご存知ですか？



宮城高次脳機能障害連絡協議会

どんまいネット みやぎ

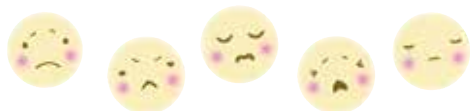


高次脳機能障害とは？

高次脳機能障害は、脳卒中や交通事故などによる脳損傷の後遺症として出現します。覚えられない、すぐ忘れる、段取りをつけて仕事が出来ない、気が散る、言葉を選べないなどの機能の低下や、性格の問題とも見られやすい、怒りっぽさ、飽きやすさ、そして急げとも見られがちな疲れやすさなどの症状があります。手足の麻痺などがなく、外見上は普通の人と同じことから、「見えない障害」と言われます。

しばしば、残存能力が高く、会話もスムーズなため、何でも出来そうですが、実際はうまく出来ない、「出来そうで出来ない」障害です。今までとは違った人ようになってしまい、生きづらくなります。

しかし、外からは「見えない障害」のために、周囲の人の理解が得られず、本人も家族も大変苦しんでいます。そして、孤立してしまいがちです。



病気やけがの後遺症ですから ゆっくりでも変化していきます！

高次脳機能障害は、後遺症ですから進行はしません。機能障害そのものが改善することもありますし、障害の特徴を理解して接することで、その方の残っている機能を生かすことも可能です。時間はかかりますが、少しずつ良くなっていきます。職場に復帰した方や、新しい仕事について働いている方もいます。

人とのつながりのある日常生活そのものがリハビリであり、社会参加への道です。良くなってからと待つ必要はありません。医療、行政、福祉には、本人の意志を尊重しつつ、本人と家族が共に元気になれるような支援策がいろいろ準備されています。そして、どんまいネットはこのつなぎ役として協力します。



「どんまいネット」とは？

私たち宮城高次脳機能障害連絡協議会・どんまいネットみやぎ・略称「どんまいネット」は、この障害にかかわってきた医療関係者を中心として、有志で設立した団体です。高次脳機能障害になった方ご本人とご家族がどこに住んでいても安心して生活できることを願って活動しています。

宮城県内の各地域において、医療機関、支援行政機関、福祉サービス事業者などの緩やかな支援の輪・ネットワークを作って、本人の生活支援や就労支援などにつないでいくこと、また家族にはこの障害の情報提供や、家族会などへつなぐなどの支援を通して、高次脳機能障害の本人・家族が周囲から孤立することのない社会を作ることを目指しています。



どんまいネットはつなぎ役

高次脳機能障害支援にかかわる部門、部署がいろいろあります。良い支援のためにはこれらがうまくつながる必要があります。どんまいネットはこのつなぎ役をします

高次脳機能障害支援拠点機関

専門の相談員がいますので、本人、家族の相談が可能です。
宮城県リハビリテーション支援センター（まなウェルみやぎ）



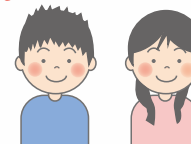
行政では

福祉サービスを受ける手続きは、市町村役場の窓口でできます。圏域の保健福祉事務所の保健師さんたちにどんなサービスが受けられるかまず相談してみましょう。

就労については

宮城障害者職業センター、地域の相談支援事業所、または障害者就業・生活支援センターで相談できます。

一人でも悩まないで
まず相談しましょう！



本人・家族

家族会

同じ悩みを持つ家族同士が語り合い、互いに支え合う家族会もあります。

地域では

地域の事情などに応じてさまざまですので、まず相談しやすい身近なところに相談して、そこから本人の希望に応じたところに つないでいただきましょう。

病院では

県の拠点病院は東北薬科大学病院ですが、現在入院や通院している病院のソーシャルワーカーにも相談できます。また、急性期の病院退院後はリハ科のある回復期病院で作業療法士（OT）理学療法士（PT）言語聴覚士（ST）の方々にも相談もできます。



未来に
向かって

家族だけで抱え込まない！ 周囲の人とつながって！

家族は、本人の発症・受傷前との違いに戸惑い、つい「出来ない」ことにばかり目がいってしまいがちです。家族だからこそ元に戻ってほしいと励ましてしまいがちですが、本人にとってはそれが苦しみの原因になり、本人と家族の関係が難しくなることもあります。

だからこそ、第三者の存在・支援が必要です。自分が何をしたいのかを見極め、第三者による支援の輪を活用し、未来に向かって新しい人生を切り開いてください。